

トピック タンポポ調査

タンポポには、古くから日本にある在来種のタンポポと明治以降日本に入ってきた帰化種のタンポポがあります。和歌山県内では、下の表のような種類のタンポポが見られます。

校庭にあるタンポポは、在来種か帰化種か、よく観察してみましょう。そして、どんなところにどの種類のタンポポが生えていたのか、地図に記録してみましょう。

調査時期：4月ごろ

種類の見分け方

黄色の花が咲くタンポポには、在来種のカンサイタンポポやトウカイタンポポ（串本町周辺に分布）と帰化種のセイヨウタンポポ（実が赤茶色のアカミタンポポを含む）があります。

春先にはどちらも開花しているので、^{そうぼうがいへん}総苞外片（花の外の緑色の部分）を見てください。在来種は上向きでくっつていますが、外来種は下向きに反り返っています。

このほかに、白色の花が咲くシロバナタンポポもあります。



カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ

内片

^{そうぼうがいへん}総苞外片

タンポポの種類	花の色	由来	主な生育地	花期	分布	総苞外片
カンサイタンポポ	黄色	在来	田園地帯	3～4月	県内各地	上向き
セイヨウタンポポ	黄色	帰化	街、道端	1年中	県内各地	反り返る
シロバナタンポポ	白色	在来	田園地帯、道端	3～4月	県内各地	大体上向き
トウカイタンポポ	黄色	在来	田園地帯	3～4月	串本町周辺	上向き

カンサイタンポポは、畑や田んぼの畦、田園の道端や草地に多く生えています。4月ごろ一斉に開花します。2倍体で受粉して種子をつくります。1株だけでは、種子はつくられません。

トウカイタンポポは、^{そうぼうがいへん}総苞外片が長く、内片の半ば以上に達し、先端に大きなつのがついているのが特徴です。和歌山県内では、限られた地域にだけ分布しています。

セイヨウタンポポは街中の公園、大きな道路の端や空き地などに多く生えています。花は一年中開花しています。3倍体なので受粉しなくても種子はできます。

カンサイタンポポとセイヨウタンポポの雑種も多く見られるようになってきています。それらは、^{そうぼうがいへん}総苞外片の形も中間的です。

（中学校指導者用5～7ページ～タンポポ調査～は、より詳しいので参照してください。）